

平成 27 年度 学習指導改善調査 協力校取組報告

糸魚川市立下早川小学校

研究主題

自分の思いや考えを、相手に分かりやすく伝える子の育成

1 研究主題設定の意図

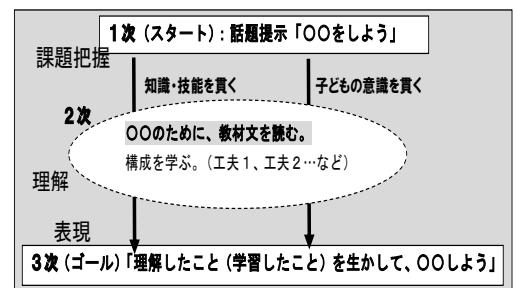
平成 26 年度は、研究 1 年次として、「理解」と「表現」を関連させた授業作りとして「単元を貫く言語活動」を位置付け、単元構成を行ってきた。

研究授業を通して、単元を貫く言語活動を意識した単元の流れが見えてきた。

- 1 次（課題把握）：単元の見通しをもたせる。
- 2 次（理解）：書く、まとめる等表現するために視点を持って読むことを意識させる。
- 3 次（表現）：学習したことを生かし表現する。

「読む」で学習したことを生かして「書く」活動を行うという、意図的な「理解」と「表現」関連単元を行うことで、児童は目的意識をもって読み進め、相手や場を意識した表現方法を体得し、表現に表すことができた。そして、そのことが児童の書くことへの自信にもつながってきた。

一方で、課題把握から理解へ、理解から表現へと関連させて単元を進めることの難しさが課題として残った。



【県小教研学習指導改善調査より】

26 年度の学習指導改善調査の結果を分析すると、どの教科においても、基礎的な問題は比較的できているが、考え方を記述する問題については無答率は少ないものの正答率が低下している。県小教研が示した授業改善のポイントを比較して、課題を次のように考える。

- ・問題の意図を読み取ること
- ・情報の整理、取捨選択
- ・説得力のある文章を書くこと（構成、理由付け）
- ・適切な用語を的確に使用して説明すること
- ・字数や時間の制限の中で文章を書くこと

そこで本年度も、昨年度から継続して国語科の「理解（読むこと・聞くこと）」と「表現（書くこと・話すこと）」の関連させた学習活動を進めるなかで、情報を整理するための「論理的思考」に着目して研究を進めていくこととする。

2 研究主題に向けての基本的な考え方

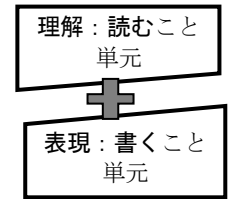
(1) 『「理解」と「表現」を関連させた学習活動』

- 理解（読むこと・聞くこと）… 正しく読み取る、目的のために読むための指導
- 表現（書くこと・話すこと）… 相手に分かりやすく伝えるための指導

昨年度、「単元を貫く言語活動」を位置付けた単元作りをして進めてきた。主な形式として次の3つを設定した。

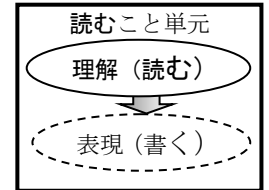
ア：「理解」と「表現」の単元を組み合わせた関連単元を構成する

教科書教材から「読むこと」と「書くこと」に関する単元を合わせて大単元を構成する。教材文から読み取った内容、文章の構成や説明の仕方をまず理解し、自分が調べたことを他者に伝える表現をするという単元構成を行う。



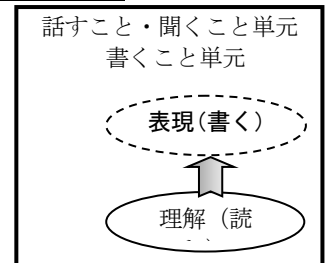
イ：「理解」の単元に「表現」を組み込む

「読むこと」の単元のなかに、それを生かして「書くこと」に発展させていく単元構成とする。教材文で内容や方法に注目しながら読み取り、自分の思いや考えを明確に表現する学習を組み込んだ単元を展開する。



ウ：「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域で「表現」するために「理解」する

「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関する単元から効果的な構成や書き方を学ぶことに、表現する内容の情報収集・情報整理を行い、表現する単元を構成する。



(2) 「論理的思考力」とは

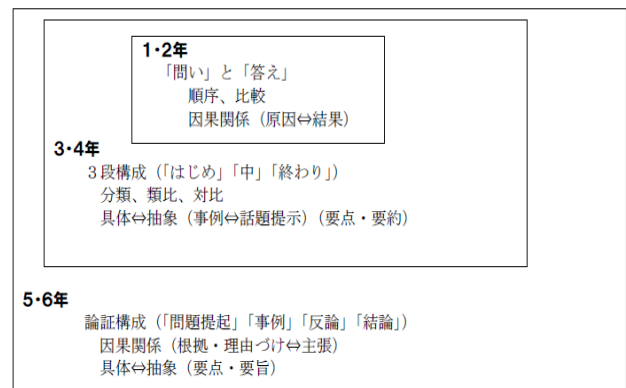
論理的思考力とは「筋道を立てて考え、ものごとを正確に理解し、分かりやすく表現する力」のことである。正しく「理解」したり、分かりやすく「表現」したりするためには、物事を筋道立てて整理して考えることが大切であると考え、「論理的思考」に着目して、「この単元ではどの力を身に付けたいのか」「そのためにどのような手だてで行うのか」を明確にしながら授業づくりを進めていくこととする。

説明的文章における発達段階に応じた身に付けたい論理的思考力を右のように位置付け、特に、

低学年では、「問い」と「答え」、順序

中学年では、分類、対比

高学年では、因果関係、根拠・理由付けを重点とした。



3 授業の実際

時期：学年：単元名（教材名）	形式	理解	表現	論理的思考力
6月：3年 「身の回りの「合図やしるし」を紹介しよう」 (合図としるし)	イ	学級討論会をして、いろいろな意見を知る。	➡自分の考えの意見文を書く。	分類
7月：6年 「俳句で表現しよう」 (夏さかり)	イ	俳句の形式、表現の工夫を理解する	➡俳句を再考する	根拠
10月：5年 「表やグラフを使って討論会をしよう」 (「よりよい考え方はどっち?」「表やグラフを使って伝えよう」)	ウ	事実と意見の違いを把握する 友達の意見を聞いて、共通点。相違点、疑問点を見つける。	➡事実と考えが伝たわる文章、表やグラフを書く。 ➡意見→理由→結論を意識して、自分の意見を明確に話す。	根拠 事実-意見
1月：2年 おもちゃの作り方ブックを作ろう (「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」)	ア	分かりやすい説明書の書き方やコツを理解する	➡おもちゃの説明書ブックを作る	順序
1月：4年 環境学習発表会で変わりやすく伝えよう (アップとルーズで伝える)	ア	説明の仕方に着目し、段落の関係と役割をつかむ	➡環境学習発表会の発表で分かりやすく伝える文章を書く。	対比 理由付け
2月：1年 わかるように伝えよう 「ようふくのきかた」	イ	順序について分かりやすい説明の仕方を知る	➡移行学級で新1年生に小学校の生活を紹介する	順序

(1) 低学年の実践から

2年『おもちゃの説明書を作ろう』（教科書教材：「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」）

『「理解」と「表現」を関連させた学習活動』ア型の学習形態を設定し、「しかけカードの作り方」で書き方のコツをつかみ、その後、「おもちゃの説明書」を書く活動を行った。

本単元で身に付けたい思考力は、「順序」で、そのために、センテンスカードの並べ替えを行った。

初めに接続語のないセンテンスカードの順序を考え、次に接続語のあるセンテンスカードの並び替えを行った。接続語なしのカードでは、並びかえの難しさを感じた児童は、接続語が書いてあるものが提示されると「これだとかんたん。」

「分かりやすい。」とさらに意欲をもって取り組んだ。センテンスカードの並び替えを通して、順序を表す接続語に着目させるようにした。が、それでも、「それから」と「こんどは」など、接続語だけでは判断に迷い、意見が多様になった。全体での話し合いを通して、接続語に注目する



「まず」って書いてあるから、これは最初かな。じゃあ、次は？「つぎに」かな「それから」かな「こんどは」かな？どれもおかしくなさそう…。

とともに、書かれている内容を読み取り、段落のつながりを考えることも大切だと感じる事ができた。

(2) 中学年の実践から

3年『身の回りの「合図やしるし」を紹介しよう』(教材名:「合図としるし」)

『「理解」と「表現」を関連させた学習活動』イ型の学習形態を設定した。

『いろいろな合図としるしを調べ、説明する』という言語活動を構想し、「合図としるし」で内容や文章の構成を学習し、自分で調べた「合図としるし」を紹介する活動を行った。

この単元で身に付けさせたい論理的思考は、「分類、具体-抽象」で、そのために「理解」の段階では、分類する活動を行った。

「合図としるし」という教材文には15種類の合図やしるしが紹介されている。児童がペアで分類しながらどのようなまとまりになっているのか考えました。そのために教材文を読みながら、まとまりを考えました。ペアで考える際には、理由も付けて話すことを伝えて始めたところ、次のように話し合いが進みました。



「リレーの色」「ゼッケン」は運動会の仲間だ。
「でも、文の中には運動会って書いてる？」



さらに全体での発表の中でも、

「どうして音の仲間に市外局番が入っているのですか？」
「電話だから」
「でも、番号だよ」
「あれっ??」
「まって、(文を) 見てみる！」
「変えてもいいですか？」

などと、児童がそれぞれ理由・根拠をつけて考えたり、友達の分類に疑問をもったりしながら、教材文に戻り、確認しながら分類をした。また、分類しながらまとまりの名前付けも自主的に付け始め、主体的な学習となった。その後、分類したグループに名前を付けながら、キーセンテンスや小見出しを考えたり、意味段落のまとまりを考えたりしながら学習を進めた。

(3) 高学年の実践から

5年『表やグラフを使って討論会をしよう』

(「よりよい考え方はどっち?」「表やグラフを使って伝えよう」)

『「理解」と「表現」を関連させた学習活動』ウ型の学習形態を設定し、「討論会の仕方」や「表やグラフの読み取りやまとめ方」の学習を生かして「勉強をするときは鉛筆とシャープペンシルどちらがいいか」をテーマに討論会をするという言語活動を設定した。

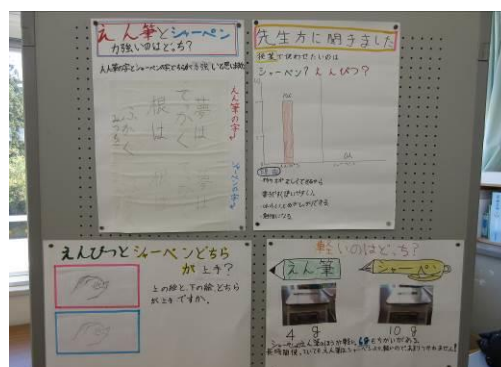
この単元で身に付けさせたい論理的思考は、「根拠」「事実-意見」が重要であり、討論会で自分の

主張がより効果的に伝わるように、必要な情報収集し、根拠を明確にした討論会を行った。

討論会に向けて、自分の意見を正当化するための資料を児童は事前に本で調べたり、インタビューと行ったりして集めた。それらの資料を相手に分かってもらうためには図表やグラフを用いて示した。

また、討論会では立論→質問→作戦タイム→最終弁論という流れで行ったが、あらかじめ準備していた自分たちの立論だけではなく、相手から予想外の主張や質問をされることがあり、その解決のためにどうしたらいいのかグループで根拠や理由をはっきりさせた意見を作り出そうとしていた。

シャープペンシルは、ずっと使っても太さが変わりません。(画用紙に示している) だから見やすいです。



自分たちの主張を相手に分かってもらえるように図や表などを用い、主張の根拠とした。

4 研究のまとめ

昨年度から意図的な「理解」と「表現」関連させた単元作りを意識して進めてきた。そのことで、学習の目的が明確になり、観点を持って読み進め、それを生かして書くことにつながった。研究授業のような大単元で実施できるのは学期に1・2回になってしまう。そこで、「理解」して「表現」する単元作りだけでなく、各授業時間の中でも「理解」したことを「表現」することとして「振り返り」の時間も重視するようになってきた。その時間で思ったこと、分かったこと、考えたことをまとめ表現できるように進めた。方法や時間の確保などの課題もあるが、継続して進めることで自分でまとめ、表現する力の育成につながるものとする。

さらに、今年度は読みを深めるために論理的思考を意識した学習を進めるようになってきた。分かりやすく伝えるためには様々な情報を分かりやすく整理する必要がある、その整理の手掛かりとなるのが論理的思考だと考える。研究授業を通して、「論理的思考力」を育てるためには

(1) 物事の「関係」や「つながり」を理由をつけて考えること

(2) 共同的な学習の中で、伝え合うこと、分かりあうこと

が大事なことだと感じた。単元レベル、1時間の授業レベルで論理的思考力を育ませるために「どのような手立てで行うのか」を考えた授業を作ることが大切である。